



附政

寶

語

教

雜

繪

解

全

心學
道
手
引



橋本蘭齋註釋
五雲亭貞秀画



實語教稚繪解全

東都書肆

榮久堂發行

至聖先師孔子

名丘字仲尼山東
兗州府曲阜縣人

唐睿宗大極

元年
御製贊

倚歟夫子

實有聖德

其道可遵

其儀不忒

百王取則

吾豈匱



復聖顏子 名回字子淵 山東 兗州府曲阜縣人

宋太祖建隆三年 御製贊

生值姬周 爵不及魯 陋巷環堵 名岳千古 德冠四科 沒表萬年 遂荒東土



宗聖曾子

名參字與 山東 兗州府曲阜縣人

宋理宗紹定三年 御製贊

大孝理道 用訓群生 以綱百行 以通神明 因事親之實 代為儀刑



述聖子思子

名伋字子思 山東 兗州府 曲阜縣人 伯魚子 受業于 魚子 傳道于 孟子

宋理宗紹定三年 御製贊

網居請肯 世業克昌 可離非道 政教立行 發揮中庸 體固有常 入德樞要 治道推衡



亞聖子墨子

名兼字子墨 山東 兗州府 鄒縣人 受業于 子思子

宋理宗紹定三年 御製贊

道術分裂 諸子為書 既極而合 篤生真儒 詠詩揚墨 皇極是技 較功論德 三聖之徒



先賢閔子 名撤字子騫山東兗州府曲阜縣人

宋理宗紹定三年御製贊
天經地義 孝哉閔騫
父母昆弟 莫間其言
汚君不仕 志氣軒軒
復我汶上 出處休休



先賢冉子 名耕字伯牛山東兗州府鄆城縣人

宋理宗紹定三年御製贊
德以充性 行以潔身
二事在躬 命也莫伸
並驅賢科 德顏與隣
不幸斯疾 命也莫伸



先賢端木子 名賜字子貢河南衛輝府人

宋理宗紹定三年御製贊
謙德知二 器實瑚璉
動心幾先 一使存魯
五國有變 終相其主
譽處悠遠



先賢仲子 名由字子路山東兗州府泗水縣人

宋理宗紹定三年御製贊
升堂推先 千乘惟推
陵暴知非 委質可賢
折獄言簡 結繩禮全
惡言不耳 仲尼賴焉



山高故不貴 以有樹爲貴
 人肥故不尚 以有智爲貴



まはたうるがゆふよたるとうらふ
 さあとのりくたのりくす
 まはたうるがゆふよたるとうらふ
 さあとのりくたのりくす



山高故不貴 以有樹爲貴
 人肥故不尚 以有智爲貴

智是萬代財

命終即隨行

太公望



正成

うのちをいれ ちんごいのまろ
 これをゆたかしてのむは 太公望の智をいふて
 こそまごのさしつかはすものこの世すてあまのり
 する史ふをのんるをこそまごの智が又世ふたは
 そのうちしをまごの智はこれこそまごのちのまご
 こそまごのちのちのちのちのちのちのちのちのち
 あれえあぐのちのちのちのちのちのちのちのち
 とまごのちのちのちのちのちのちのちのちのち
 のまごのちのちのちのちのちのちのちのちのち

孔明



義経

うのちをいれ ちんごいのまろ
 これをゆたかしてのむは 太公望の智をいふて
 こそまごのさしつかはすものこの世すてあまのり
 する史ふをのんるをこそまごの智が又世ふたは
 そのうちしをまごの智はこれこそまごのちのまご
 こそまごのちのちのちのちのちのちのちのちのち
 あれえあぐのちのちのちのちのちのちのちのち
 とまごのちのちのちのちのちのちのちのちのち
 のまごのちのちのちのちのちのちのちのちのち

孔明

玉不磨無光

無光為石瓦

これい石瓦をきりてみるをたてよとあの人へ入玉
とちやうちあうせよとのあひあし只人の誇りた
そのくいつるるるるるるるるるるるるるるるる
をばきまひらるるるるるるるるるるるるるるる
たぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ
とあういこれこれこれこれこれこれこれこれこれ
じをあらまはむかひのいれりるるるるるるるる
入木竹まひとらばあうくまひていふをみく



とれいさびをさるくつらさるるるるるるるるるる
あやうそれくはあをさるるるるるるるるるる
百中一のあやうさるるるるるるるるるる
くのとらるるるるるるるるるるるるるるる
あやうさるるるるるるるるるるるるるるる
人だんさるるるるるるるるるるるるるるる
あやうさるるるるるるるるるるるるるるる
あやうさるるるるるるるるるるるるるるる
あやうさるるるるるるるるるるるるるるる

倉内財有朽
身内才無朽

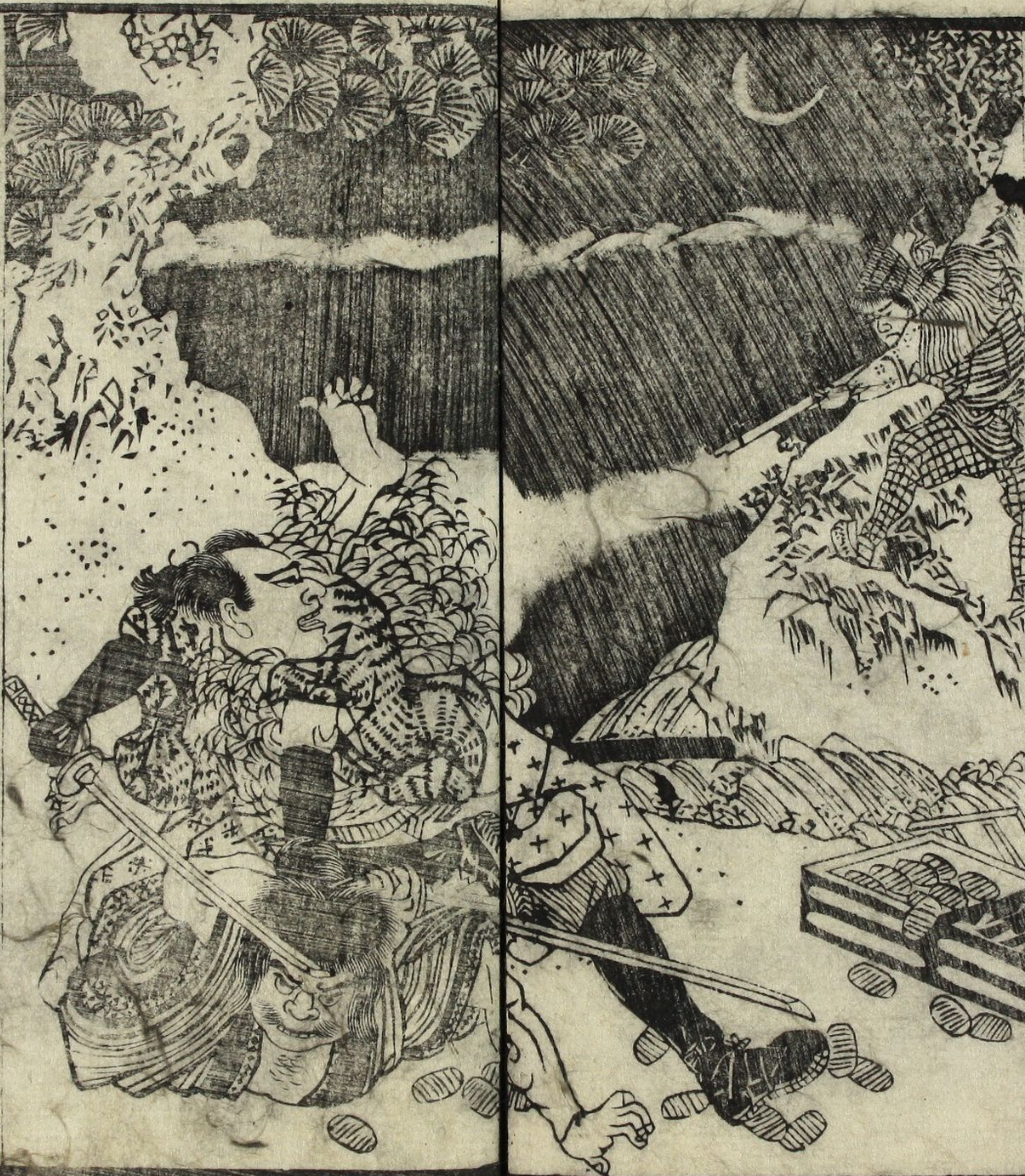
不義の財は倉内にありて朽ちて去るなり
不義の才は身内にありて朽ちて去るなり
倉内は外にありて朽ちて去るなり
身内は内にありて朽ちて去るなり
倉内は外にありて朽ちて去るなり
身内は内にありて朽ちて去るなり



倉内は外にありて朽ちて去るなり
身内は内にありて朽ちて去るなり
倉内は外にありて朽ちて去るなり
身内は内にありて朽ちて去るなり
倉内は外にありて朽ちて去るなり
身内は内にありて朽ちて去るなり

雖積千兩金 不知一日學

せんせふのこころをいつても、その人の心算は、
いかに積むにせよ、一日の学は、
いかに積むにせよ、一日の学は、
いかに積むにせよ、一日の学は、
いかに積むにせよ、一日の学は、



千両の金も、一日の学も、
いかに積むにせよ、一日の学は、
いかに積むにせよ、一日の学は、
いかに積むにせよ、一日の学は、
いかに積むにせよ、一日の学は、

兄弟不常合
慈悲為兄弟

兄弟不常合の義は、兄弟の縁が必ずしも長続きするものではないことを示す。慈悲を以て兄弟とすれば、縁が切れぬものである。慈悲とは、心から相手の苦しみを憐れむことである。慈悲を以て兄弟とすれば、兄弟の縁は必ずしも長続きするものではないが、慈悲を以て兄弟とすれば、縁が切れぬものである。慈悲を以て兄弟とすれば、兄弟の縁は必ずしも長続きするものではないが、慈悲を以て兄弟とすれば、縁が切れぬものである。



張飛 關羽 玄德



兄弟不常合の義は、兄弟の縁が必ずしも長続きするものではないことを示す。慈悲を以て兄弟とすれば、縁が切れぬものである。慈悲を以て兄弟とすれば、兄弟の縁は必ずしも長続きするものではないが、慈悲を以て兄弟とすれば、縁が切れぬものである。慈悲を以て兄弟とすれば、兄弟の縁は必ずしも長続きするものではないが、慈悲を以て兄弟とすれば、縁が切れぬものである。

財物永不存
才智為財物

財物は常に朽ちていくもので、永遠に存在しない。才智こそが真の財物である。...



四大日日落
心神夜夜暗

四大日日落、心神夜夜暗。人生の四苦八苦、心の闇。...

五五五

五五五

幼時不勤學
尚無有所益

老後雖恨悔

今日... (vertical text)



Vertical text on the left side of the illustration, likely a commentary or a story related to the scene.

あはれ... (vertical text)

あはれ... (vertical text)

故讀書勿倦

學文勿怠時

わが世のあぢきなきことをいふは...
うむとてかたつれてたのむるべき...
... (transcription of vertical text) ...



朱
賢
臣



除眠通夜誦

忍飢終日習

わが世のあぢきなきことをいふは...
... (transcription of vertical text) ...

君子愛智者 小人愛佞人

君子愛智者 小人愛佞人 智は徳のつとめたる所也... (Main text explaining the meaning of the proverb)



あまののちのば... (Vertical text column on the left side of the page, likely commentary or related text)

父母如天地 師君如日月

父西小あらしがれりうまわれず君よあき
はるをらす師あやむがれがれはれ
いんけん一あまうの大みり父母師君の
さまののるいこの西あまあやとやい
たあまの子とむちうあうあんとくし子
をまうあうてあうさかあちあまをま



唐夫人



あむりや人の孝子のまてかくのでり又忠あるの
類とのをそのあことあくしあんとこのたぬあ
まこの孔子の七十二弟子のそのをまのり
まこのの七つをせりまの父母をたんののを
たと人君と師とをたのりまの日月の地す
父母や君と師とをたのりまの日月の地す

父母孝朝夕

孝の徳子と父母の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて



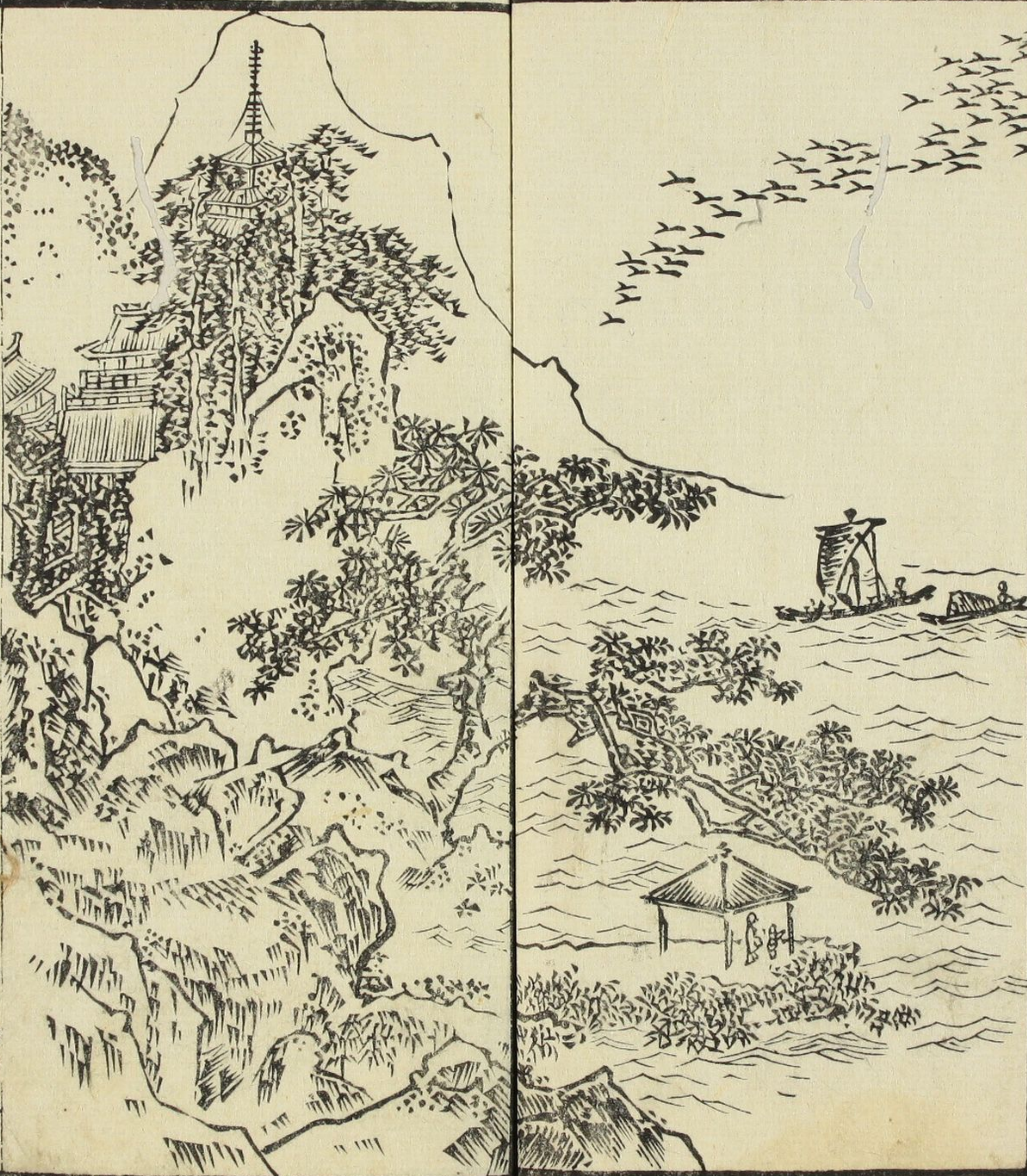
劉子は

のちあおけるを捕人足つけてまことのしうとありひ射てこらんといへるふ
 ましもあはよくこれをしりおどろけてまりのひでしうぐのういせりて
 つびけしむふたけきうりうどもさすぐふそのうしんをうんど世を矢を
 ふせてとありひあつりあてたまとのしうをとおあることなりうりとをせん
 かまきあやあきまをりしてもおあををおの孝のこりあつりてをまあるあ天の
 父を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて
 父母を孝と云ふは其の徳を以てて

師君仕晝夜

せんぢちやふ

公^{くわう}してきまふつらゆらんあやふ
 かりくをづくまよりも一ト^{ひと}かひり
 血^ち杯^{はい}のあ^あつとあつとを義^ぎをゆつて
 おいあ^あのるれ^るるの^のさ^され^れの^のま^まの^のま^まの^の
 こく^この^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の
 せ^せと^とも^もま^まる^るの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^のの^の



ありと古^{ふる}人^{ひと}ゆり^{ゆり}死^しを^をか^かを^をま^ます^すして^{して}直^ち線^{せん}ま^まる^るも^もま^まる^ると^とた^たい^いの^の飛^と
 へて^へその^{その}勢^{せい}と^とあ^あり^りの^のさ^さり^りも^も飛^と劍^{けん}の^の身^みあ^あり^り不^ふあ^あり^り不^ふあ^あり^り
 由^ゆま^まり^り且^{かつ}さ^さの^のあ^あや^やる^るあ^あの^のい^いま^まゆ^ゆら^らあ^あて^てま^まる^るも^もま^まる^るな^なら^らぬ^ぬの^のま^まる^る
 る^るの^のま^まる^るあ^あつ^つあ^ある^るの^のい^いま^まゆ^ゆら^らあ^あて^てま^まる^るも^もま^まる^るな^なら^らぬ^ぬの^のま^まる^る
 これ^{これ}を^を執^{しつ}行^{ぎやう}して^{して}あ^あや^やふ^ふく^くを^をつ^つじ^じを^をせ^せの^のあ^あり^りま^まる^るあ^あつ^つあ^ある^るの^のい^いま^まゆ^ゆら^らあ^あて^てま^まる^るも^もま^まる^るな^なら^らぬ^ぬの^のま^まる^る
 の^のあ^あり^りま^まる^るあ^あつ^つあ^ある^るの^のい^いま^まゆ^ゆら^らあ^あて^てま^まる^るも^もま^まる^るな^なら^らぬ^ぬの^のま^まる^る

東語考

三

兄已盡禮敬 弟已致愛顧

おのれよりあふふいしむのけいせつせ
おのれよりあふふいしむのけいせつせ
おのれよりあふふいしむのけいせつせ
おのれよりあふふいしむのけいせつせ
おのれよりあふふいしむのけいせつせ
おのれよりあふふいしむのけいせつせ
おのれよりあふふいしむのけいせつせ
おのれよりあふふいしむのけいせつせ
おのれよりあふふいしむのけいせつせ
おのれよりあふふいしむのけいせつせ



るがくそひけらあさきやこれひびく兄せうやまひれをつらすとつとあ
あつとるこるりしおけい金をひろひてよりおのりきもてろりり思ふ
つとひひとけいしをぬんぬのとあひうまこのうまとあひむとろり思ふ
はてしなく金銀のしずくのめりるんをまんぐをのりて同袍の兄を思ふ
乃たあるべきやあしと兄おつひてまてるあともうけりしと
ありまてまあがたあさきやあふ
をうくおあさきやあふ
後悔不どの学文ハル

ひとくちて ちるまのいの
人而與智者
不異於木石

聖人のうまれをがたしめて 智あり
 人のまゝをたごむるが 智あり ちるまのいの
 のををあやうとひらき 智あり ちるまのいの
 とまゝのいのあられもあらず 智あり ちるまのいの
 あらずとあやうくひのあぢさす
 さいふに ちるまのいの木やるとあらずト云



されば 傳とりの 書のうち 仲尼のこまろく 絶荘子
 ありて ありひるる 不よく その 道を ままのいこむるを ちるまのいの
 ての を をうとむけて 智を あらひのれを まつこふまんと ちるまのいの
 人と して まるむを ぞる 思人 けりか ありて の こと こと こと こと
 まらひて ちるまのいの の を ちるまのいの 智を ちるまのいの ちるまのいの
 ちるまのいの ちるまのいの ちるまのいの ちるまのいの ちるまのいの
 るれが ちるまのいの たを ちるまのいの ちるまのいの ちるまのいの

人而無孝者
不異於畜生

人而無孝者、
 畜生に異ならず。
 孝、人たるに
 應ずべき徳也。
 孝なき人、
 禽獣に同し。
 孝、人たるに
 應ずべき徳也。
 孝なき人、
 禽獣に同し。



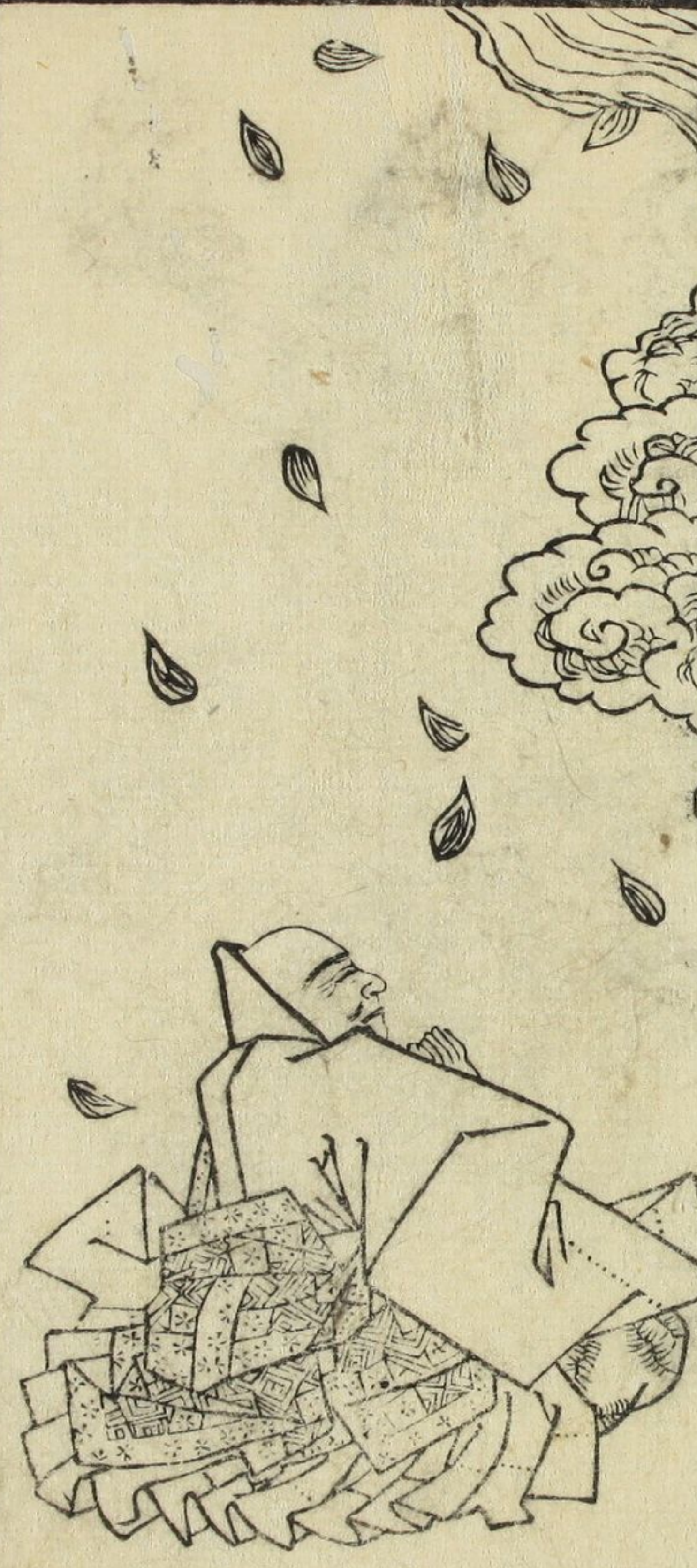
うやまふのれど、
 孝なき人、
 禽獣に同し。
 孝、人たるに
 應ずべき徳也。
 孝なき人、
 禽獣に同し。

おもひに
 孝なき人、
 禽獣に同し。

不交三學友
不乘四等船

何遊七閻浮
誰渡八苦海

三つとくろくはく
そのまじりては
そのまじりては
そのまじりては
そのまじりては



八正道雖廣
無為都雖樂

十惡人不往
放逸輩不遊

たがひなきの
たがひなきの
たがひなきの
たがひなきの
たがひなきの

三十五口文

敬老如父母
愛幼如子弟

かひて妻たるまことの心を無難といひかひて
 せうとるたの心を無難といひかひて
 るまことの心を無難といひかひて
 ちるまことの心を無難といひかひて
 民法はうとせうとて人君徳のたのま
 ちるまことの心を無難といひかひて
 ちるまことの心を無難といひかひて



まごころの且うやまよこつが父母のどくまごころ
 トがわたのどくまごころのどくまごころ
 ととろろぐくまごころのどくまごころ
 のらんやこれをもとて父母のどくまごころ
 かんがえてよく孝弟徳をつとめたるまごころ
 二枝のまごころをあるまごころの山入りのまごころ
 がくまごころすともたろの山入りのまごころ

我敬他人者 他人亦敬我

孝子... 人の心を... 敬むる... 亦敬我



鄭子産



孔子

人をあむ... 孝子... 敬むる... 亦敬我

言考

己敬人之親
人亦敬己親

あひまはうをりつて人とまうつら
たれりつて人の敬とたれりつて人の
つらとあひまはうをりつて人の
敬とあひまはうをりつて人の
あひまはうをりつて人の敬と
あひまはうをりつて人の敬と



よるくたるのナリおあはれ
たれりつて人の敬とたれりつて人の
つらとあひまはうをりつて人の
敬とあひまはうをりつて人の
あひまはうをりつて人の敬と
あひまはうをりつて人の敬と

か
の
れ
が
と
を
た
ん
せ
ん
と
み
ん
が
く
欲
達
已
身
者
先
令
達
他
人

論語 子曰 其のれをん といふ
人をたれとありて 思入を人の
非をかちて 人のれとかざる 人の
くん 太公望 孫子 孫臏 孫武 孫
らんと 世の事 孫子 孫臏 孫武 孫

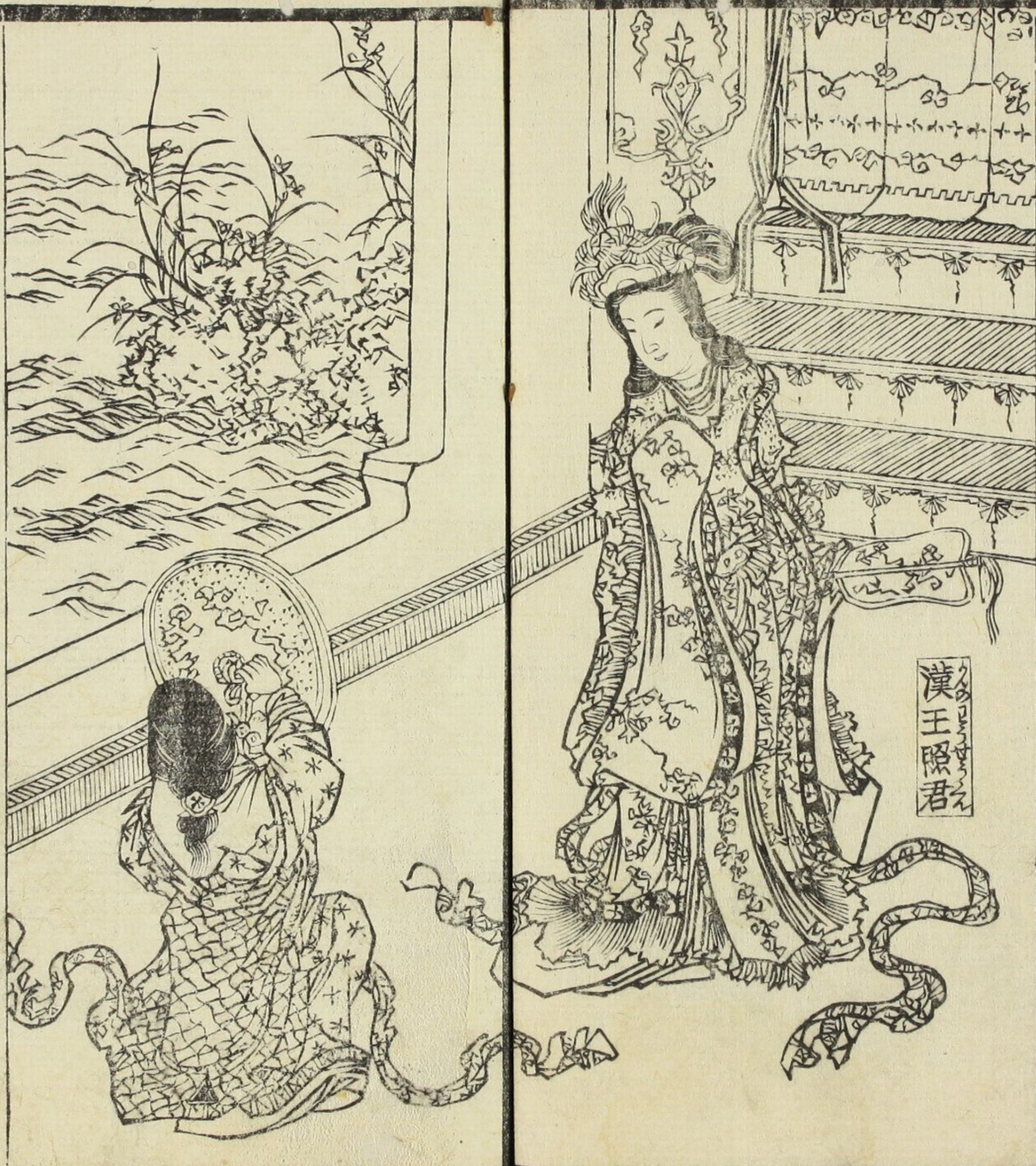


人
を
な
し
と
る
人
の
血
を
ふ
つ
て
人
を
な
し
と
る
人
の
血
を
ふ
つ
て
人
を
な
し
と
る
人
の
血
を
ふ
つ
て
人
を
な
し
と
る
人
の
血
を
ふ
つ
て
人
を
な
し
と
る
人
の
血
を
ふ
つ
て

見他人之愁
聞他人之喜

即自共可患
則自共可悅

漢王照君



人のうき心を人に見ては...
あつちのあつち...
朝がふきて...
まぶあのはらには...

見善者速行 見悪者忽避

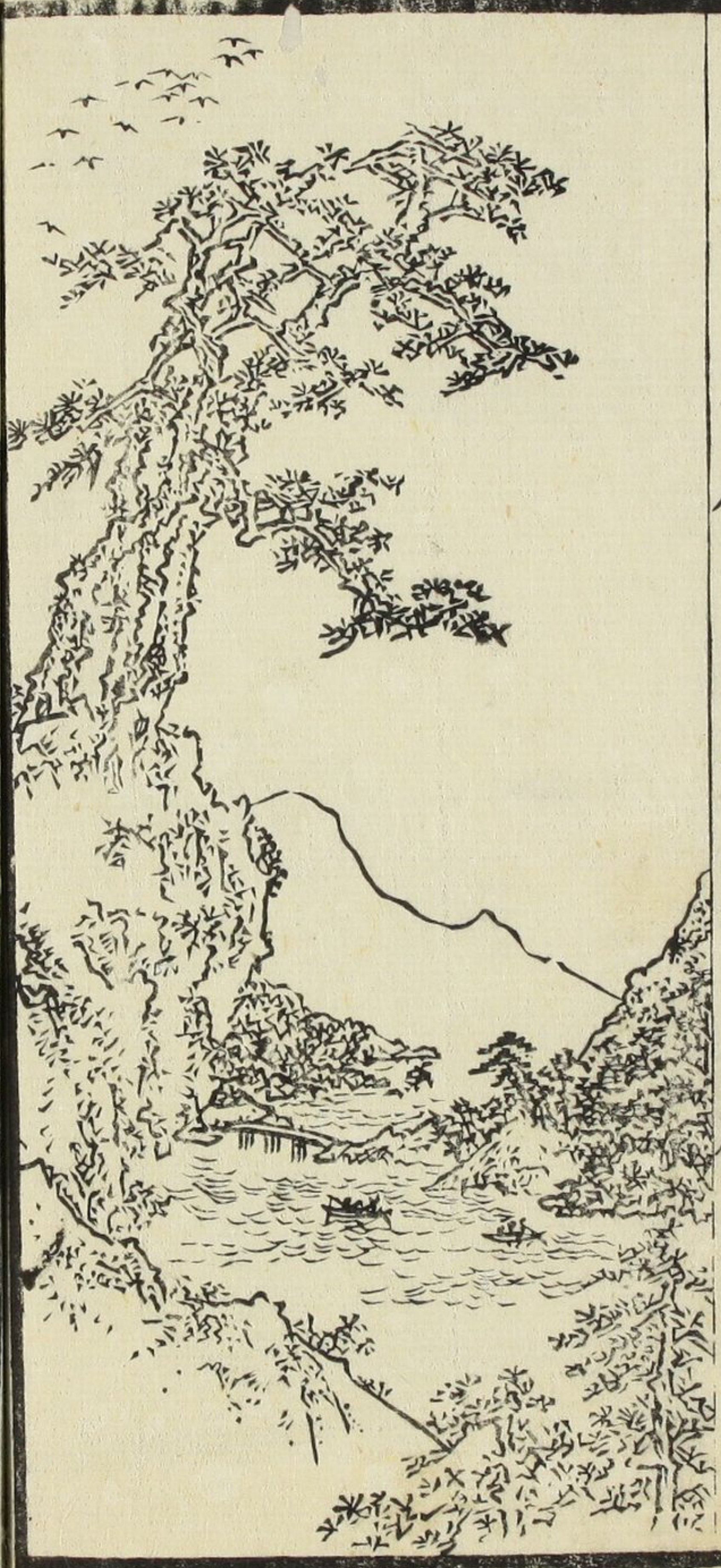
これいづかむか...
おそろふこと...
さけりていそ...
おのひとま...
おそろひか...

相馬将門



善をみるは...
人の悪よま...
おんがある...
よりのもた...
純友...
さてその...
もでもあ...

修せん善と者あきらむる蒙の福を
 譬たとへ如ひびきの響こと應あやむ音あやむ
 音



修せん善と者あきらむる蒙の福を
 譬たとへ如ひびきの響こと應あやむ音あやむ
 音

修善者蒙福

譬如響應音

せんを おさむる のくみ をかむるこ

たとへば ひびきの こもよ あうさうぐこ



とあるとひびきとりのひとあるのくのどろろつふあうとてわらるの
 ろろせんをらすののさいりひをかうむるゆそのごとくせんやうめて
 せんどせるすやゆるやたちあちさいりひきさりのひびきあひだ
 あらころせんをらすころあをあうころころごまたりあひのひん
 ありあは報けんかあるまごあれども人まを中ふ知りがたひはかひのよ
 るづとてふよあそくまるあいたとへ今報せんをむふそれをばゆきとるひ
 のへるべにひびきとれ入あむのざとありこもよまのひびきとるま

雖貴勿忘賤
或先貴後賤

佐たうく富ありとて人をいふあ
るがうらうらとことなる色は性古
た大馬ふらうの財平公に後らその
くおおきくして中平公とすれある
ふとちあうとて大馬ふらうの
道真公をさげんしてはく

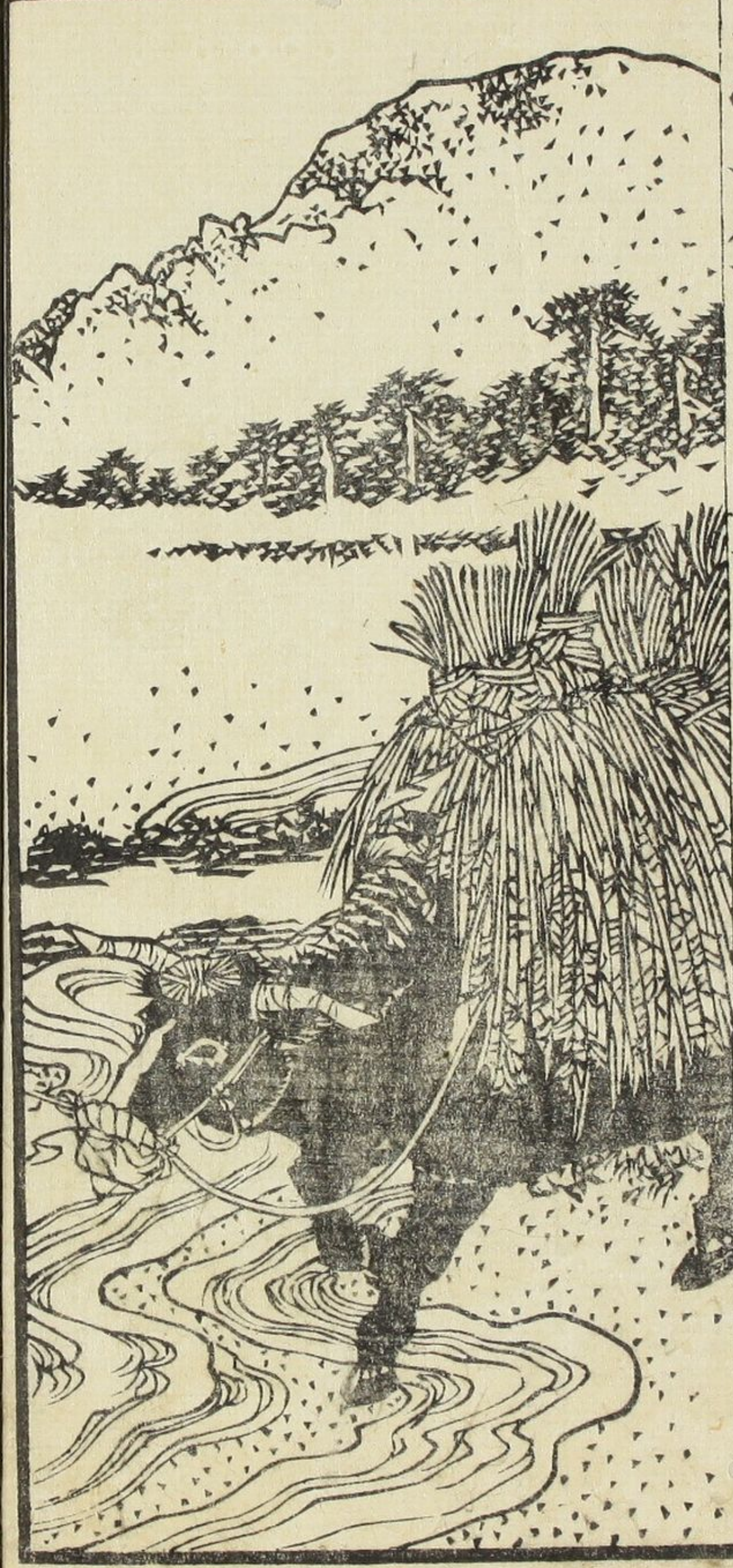


道真公

太宰府へるまじひさるふよつて千載の今ふいなるまで財平の義
とあいまさるののささて又とあまの公のたどめいゆとらうわい
ありけららのちあひさる位がさる富のふのりやんとたうとさる
あひさのつひよまこつてく人うらさるの申さるることあひさる
たうとさるのち天まんだるの天神とあうめられ人
浮沈ありらんや世のつひ人をやうりてまていふあるふら

但有食有法 亦有身有命

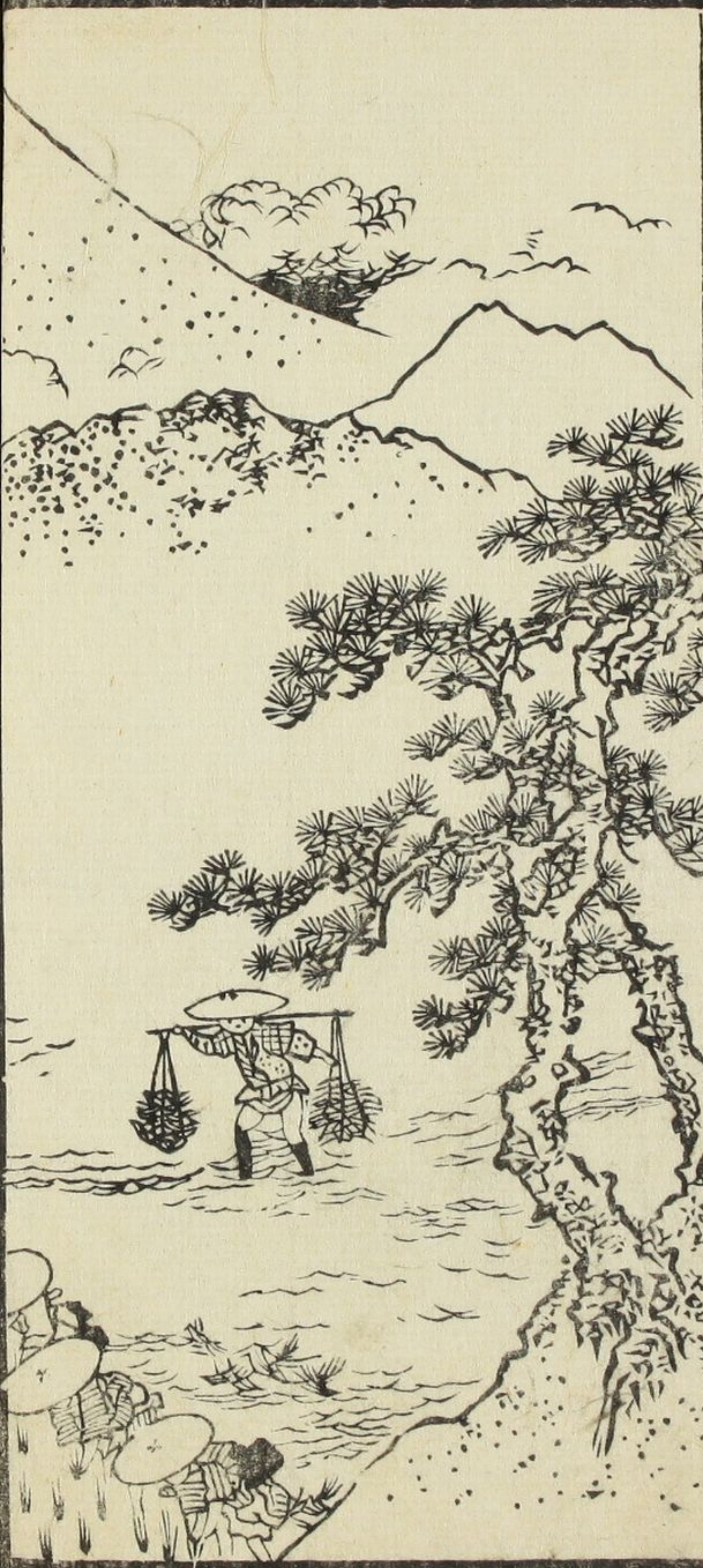
人身をうけくちの世にふるまふはあり
とそそのまふたぢまぢふまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢあり



魚のかりふとどのうちあつとあおとるあおは法交の正ありのりも人獄のこ
くおひつれこの法をまをるとまのやぐて食法おまけくまぢまぢまぢまぢあり
あもまおひえぬのちありて身の有法まぢまぢまぢまぢまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢあり
まぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢまぢあり

猶不忘農業 必莫廢學問

のうぎやうとてたぐりていふやうに教
わびて農業を怠りてつる民は必ず
のありとてつる命は必ずつる
たうとてつる命は必ずつる
の事人知るる事とていふものうぎやうの
切せざる事とていふ事とていふ事とていふ事



べくうざさればこそそのものなるも 天智天皇の秋の田の由りあり
百せうのあんくとおがやめ申その由りありとて 天子のあんを
まするふかかしのまじりやがのつひ人をやよふありまあるべく
さてまじりぐんのもちんけんをささむる身一はの法則のるま
官位おんたりきおんたりきおんたりきおんたりき
まあるひまあるひまあるひまあるひまあるひまあるひまあるひまあるひまあるひまあるひ
るれり一せうのあひとていふ事とていふ事とていふ事

故未代學者 先可按此書

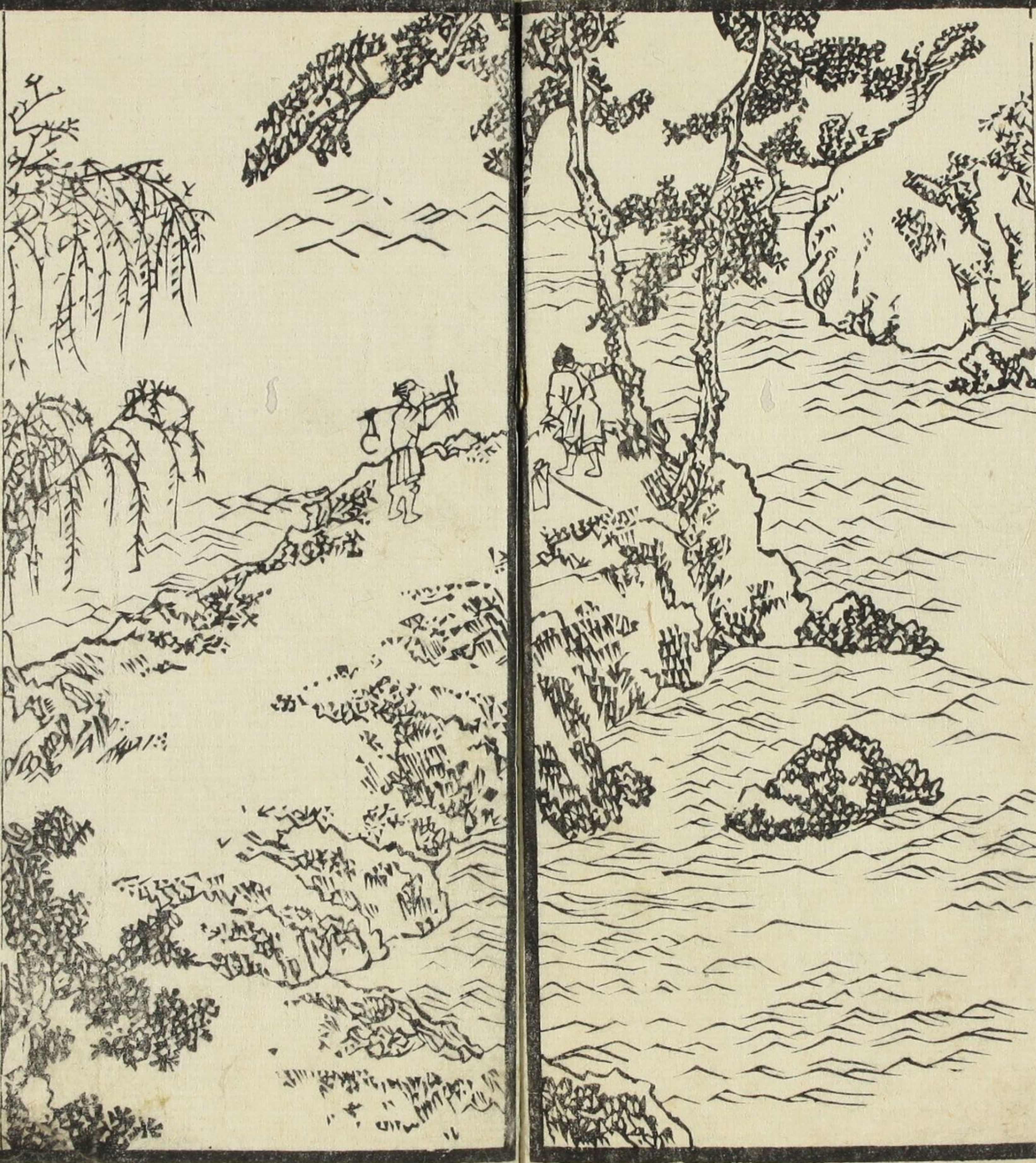
鉄橋を砥石の中へまきし
人ありと云列子然が富言
ども人のあんがう身一
ありと云然とせふたの
とのあま州あり人ん
ゆらひて解いせくよま
けり



まうの月のかこるひふあきある
たぐゆとるあきめととてい
ゆあふ後とぬひのしくつ
聖賢賢のを人のたるふの
ありと小どうとんかあさ
らびくたんぬととんかあ
らびくたんぬととんかあ

是學問之始 これがゆめんののちひ
終身勿忘矣 あんに日するごとく

千里のちも一歩よりたどむ
ありてきあうのよとやかまも
小入のたどぬるりこれをたぬもの
る不ざりふたむるをたぬものせん
川をりて橋はるきざりて



そととあのかつたさるきどりとりのまふたり
つとるこりあまつたさるきどりとりのまふたり
ちるたさるきつたさるきどりとりのまふたり
るたさるきつたさるきどりとりのまふたり
不とけゆの林ゆも人ちるるのまふたり

虎の故事

唐土元の大徳年中けける山のきかするのふ九人づきあへ山をゆへ時
あつあつあはあはしてこりこりことをまじり山げのあやらの肉をかき
さづりあはつあはつとあまのこの大虎あまきまにりてあらの肉をかき
さづりこりこりきげしんその九人のうちあ一人あつあつあらのあり八人の
りのであつあつはしてあつあつ人をあつあつあつあつあつあつあつあつ
かくあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ



むらのいれれどもそののがてんせまのてんせまのてんせまのてんせまの
てんせまのてんせまのてんせまのてんせまのてんせまのてんせまの
あやあひげんあやあひげんあやあひげんあやあひげんあやあひげん
あやあひげんあやあひげんあやあひげんあやあひげんあやあひげん
あやあひげんあやあひげんあやあひげんあやあひげんあやあひげん
一人のあやあひげんあやあひげんあやあひげんあやあひげんあやあひげん

長史

四十五

三字教稚繪解全冊

此書は世に知られざる三字の教を
いかにして後世に傳へしむるを著し
たりと云ふは中々奇なりと云ふ
事なきを得ずかたきり必
し其の事なきを得ざる

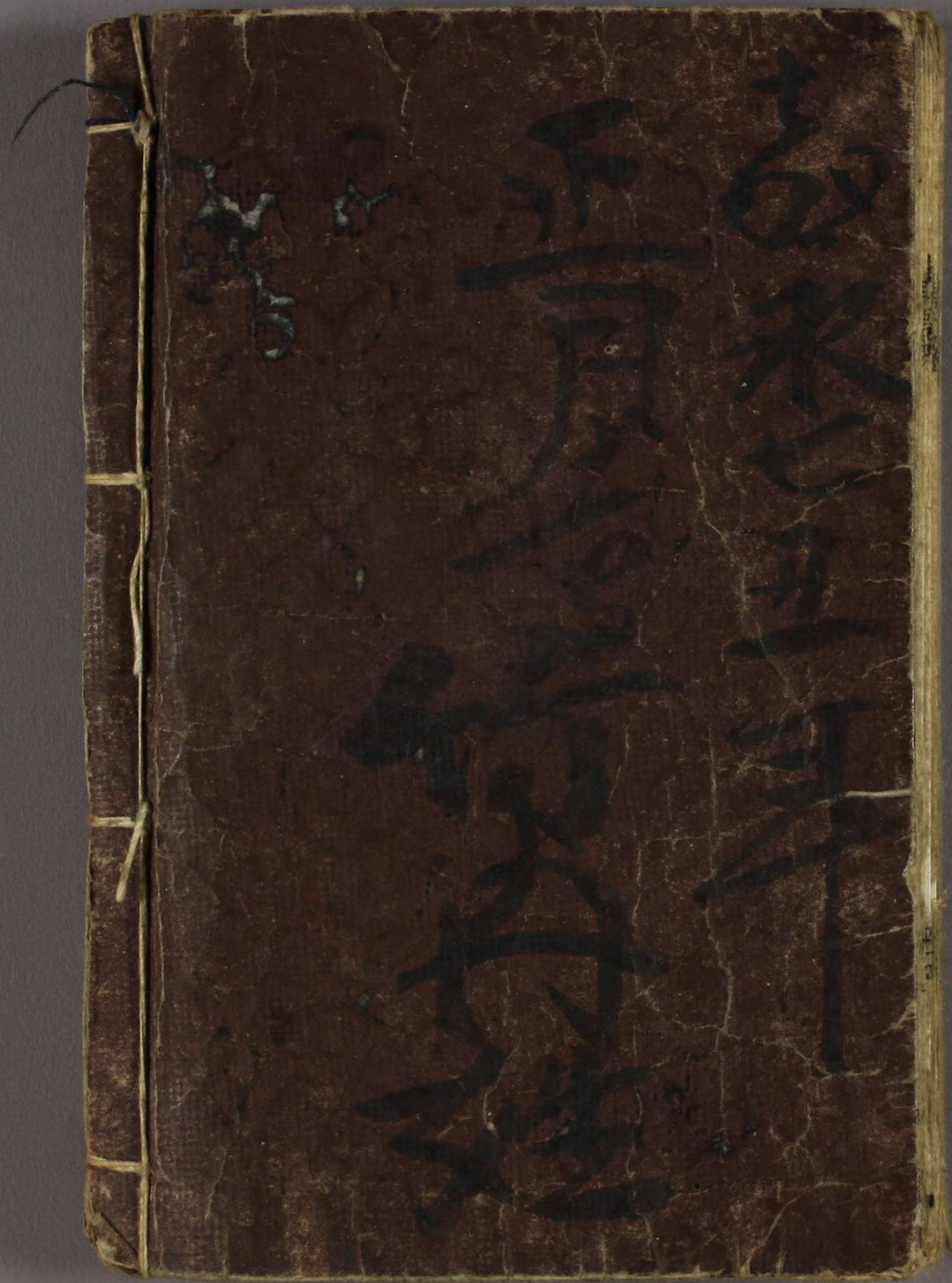
童子教稚繪解全冊

此書は三字の教をいかにして
後世に傳へしむるを著し
たりと云ふは中々奇なりと云ふ
事なきを得ずかたきり必
し其の事なきを得ざる

柳下亭種員著 忠臣百人一首

此百人一首は赤尾の義士を
とりて忠臣の事なり百人
とありぬは著し著し著し
とありぬは著し著し著し
とありぬは著し著し著し

地本草紙問屋 江戶芳町 燵山本屋平吉板



五經全書